

第 177 回 例会 HaksanView 報告

滝ヶ洞山 1249.4m

☆参加者

田中信行 小谷辰雄 原田聡 高田和三 井上達男 境原直毅(高田氏友人)

☆行動概要

◇2014年8月22日

関西組4人が予定より早く午後2時過ぎに HaksanView 到着。早速近くの湯の平温泉に行き汗を流して HaksanView に戻ると丁度原田さんが蓼科から松本、平湯、高山経由で到着したところだった。テラスでビールの乾杯から始まって BBQ ピットに移動、ダッチオーブンにてじっくり煮たトリや鮎の塩焼きなどを肴にもう秋の気配がする夜長を楽しんだ。ミヤマクワガタが宴会に飛び入りしたりした。



テラスでカルパッチオを肴に乾杯



BBQ ピットで焚火を囲んで歓談



カルパッチオが風呂上がり一杯ピッタリの肴でビールがうまかった、と田中信行さん。写真を報告に載せるようにと。

◇8月23日、曇り、時々晴れ 滝ヶ洞山 1249.4m 登山

今回の山は東海北陸自動車道の清見インター東側にある滝ヶ洞山。岐阜 100 山に加えられているようだが飛騨の藪山で、登山道は整備されていない。最インターネットで検索するといくつか記録が出てくるが、それぞれ林道を離れると適当に植林地の尾根をかすかな踏み跡伝いに登っている。近頃林道の延長

工事が進められていて頂上の北側を巻くように工事車両が入っている。これに惑わされていたらと真新しい林道を辿って遠回りをした。1100m あたりでやっと稜線に入り頂上に達した。測量用のペグとピンクのテープが踏み跡に沿って頂上近くまで伸びていたが、測量用の目印は肩のあたりから右手に折れて枝尾根を下っていた。下りはこの尾根をまっすぐ下った。

七合目主義(頂上に執着しない)と自認する原田さん、足腰に焼酎が廻って体調不良だったベッタさんの復帰第一戦、ともに山頂を踏んだ。天候不順で各地に集中豪雨が襲っているこの頃だったが、パーティの中に晴れ男がいるらしく、日差しのある中、おおむね樹林帯を歩く涼しい一日だった。60代の若者は井上一人で4人は70代。往年の名クライマー達もゆっくりした老ハイカーとなり藪山をのんびり楽しみながら歩く。また休憩時間はよもやま話に花が咲き出発がつつい遅くなる。時間記録があまり意味ないと思うがGPSのデータから書き留めておく。



上小鳥集落外れの水洞林道入り口から出発



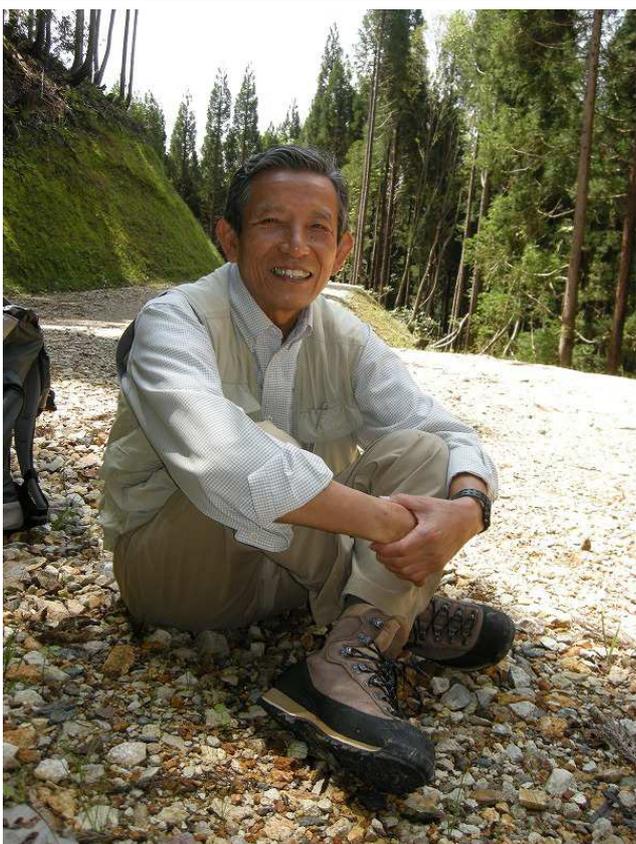
新しい曲がりくねった林道に行く

9:53 上小鳥集落外れの水洞林道に入っすぐ、ゲート下の空き地に駐車して出発。

畑仕事をしていたおっさんから熊に気を付けてと声を掛けられた。周りの田と畑の地主だという。電気柵を閉めるのでゲート近くの空き地から100m程下がった林道わきの沢横に駐車となった。ここも獣害がひどいようだ。

10:44 1050m 車止め鎖のある林道分岐点

水洞林道から左手に分かれて立筋林道に入り、広葉樹の枝に覆われた涼しい林道を登り、標高1000mで一服した後、国土地理院の地図に記載されている林道の終点、標高1050mに到着。新品のチェンと車止めポストが設置されている。真新しい林道が一本は左手の小さな沢沿いを急坂となって登っている。もう一本は右手にゆるやかな傾斜で続いている。右手を選んで先へと歩を進めた。これは選択ミス。だったらとまたくねくねと山の鼻をいくつも越え、さらに折り返してさっき別れた分岐点をすぐ下に見下ろし、まだ先へ続く。最近、新しい林道工事に出会うとなぜこんな無駄な掘削をするのか、と怒りを覚える場合が多いが、この道も高度を稼ぐことなく山肌に無残な傷を残して延々と続く。土建屋は沢山仕事があって嬉しいだろうが、伐採作業後の材木の搬出が容易になるように配慮した道路設計だとも思えない。最近の大雨で崖が崩れている場所があった。これは修理の仕事が出たことになる。業者は幸せだ。納税者はため息。



境原直毅氏(高田氏友人)



主稜線取付きで休憩



頂上付近



滝ヶ洞山 1249.4m 頂上-1



登りに使った林道を横切る



滝ヶ洞山 1249.4m 頂上-2



ひるが野のベーコンショップ Grün で試食

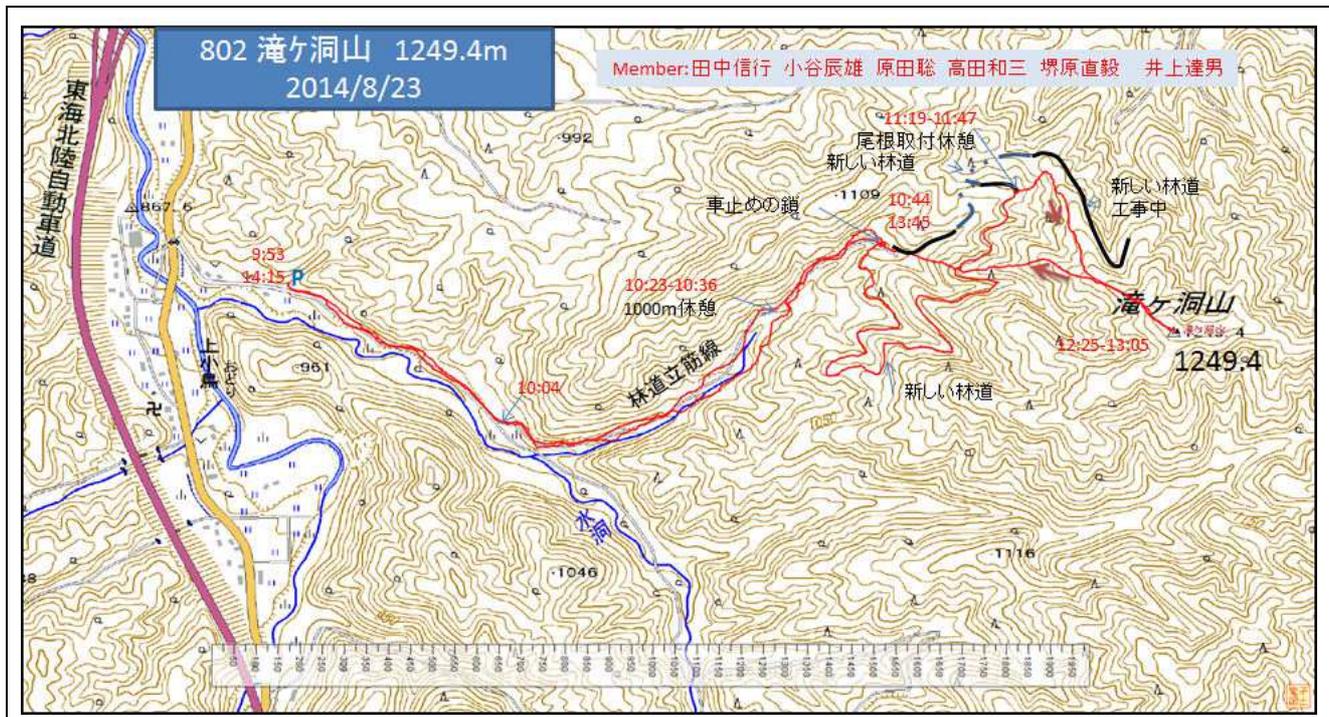
12:25-13:05 滝ヶ洞山 1249.4m 頂上

頂上から北西に延びる主稜線へ登りたいのだがなかなか略奪点が出てこない。やっと標高 1050m、右手に緩い谷筋と、稜線が木の間越し近く見えるところで林道を離れることにしてゆっくり休憩。林床に藪のない植林地を抜けて稜線に達し、踏み跡と測量の目印ペグに導かれて山頂に向かった。少し藪が踏み跡を隠すようになったらすぐに山頂に達した。三角点の 10m ほど手前の木に山名の標識があった。

頂上で昼食。柿の葉寿司が好評だった。

14:15 登山口帰着

下山は主稜線から左に外れて車止めのチェーンが張ってあった林道の分岐点に下っている支尾根を測量用の目印とかすかな踏み跡に導かれながら下った。途中で一服することもなく登山口に帰着。



荘川の桜卵を買って、桜花の湯にて汗を流し、ひるが野分水嶺公園そばの Grün というベーコン、ハ

ム屋さんで手作りハムとベーコンを手に入れ、HaksanView に帰るころに激しく雨が降り出した。



無事下山



Grün にてハムの試食 説明する主の安田氏

夕食は室内で飛騨牛の鉄板焼き。

◇8月24日 雨後曇り

今回の例会を企画中に高田和三さんから注文が出た。70代らしくゆったりとした計画にしてほしと。「北濃や飛騨には名所が沢山あるはずだが今まで一度も案内がない。今回はそれを案内せよ。」とのご指示であった。そこでまずは白山美濃禅定道の取付きあたりを案内することにした。

美濃馬場は白山長滝神社で、明治初まで宿坊が沢山あった場所である。泰澄が白山を開山して以来、神仏混交の歴史を重ねているのが白山信仰のようで長滝神社も横に長滝寺がある。この地に住み始めて初めての正月に初詣は白山長滝神社としたが、寺にお参りした後、家内がそこで売っていた破魔矢を何も疑問に思わずに持ち帰って神棚に飾った。次の年に新しい破魔矢を神社側で買って古いのを廃棄しようとして気づいた。「破魔矢に長滝寺とかいてあるが、寺??」と不思議そうな顔。

長滝神社は社殿の立派さが往年の賑わいを伝えている。

次に阿弥ヶ滝を訪れた。この滝は別名長滝と呼ばれている。日本の滝100選の一つで落差70m、今日は長雨の続いた後で豪快な水量と飛沫に加えて谷底に轟音を響かせていた。夏休みもあと一週間、多数の観光客でにぎわっていた。滝の遊歩道入口右岸に流しソーメンを売り物にした茶店がある。そこも満員だった。日本初の流しソーメンの店というふれこみだ。白山美濃禅定道は白山長滝神社からこの滝の落ち口上流を檜峠へと登って行ったようだが、今日その踏み跡は部分的に残っているのみだ。

我々は滝を後にして檜峠を越えて石徹白に入った。村のふれあいセンターでトウモロコシ祭をやっていた。そこで炊き込みご飯300円の昼食を摂って石徹白の大杉へと急いだ。石徹白中位神社は参詣を省略した。代わりと言ってはなんだが、高田和三さんが北口先生の山小屋に寄りたいというので石徹白川沿いの別荘地に案内する。先生は留守だったが、建築家の設計によるユニークな建物を外から見学。大杉の駐車場まで石徹白川沿いの狭い道を何度も対向車ときついすれ違いを繰り返して登り口の駐車場へ到着。420段の石段を上ると推定樹齢1800年の大杉とご対面だった。



阿弥陀ヶ滝



石徹白の大杉

石徹白で関西に帰る4人と別れ、飛騨牛を奥様への手土産にしたいという原田さんを大和の肉屋まで案内。みなさん夜遅くに帰宅されたことと思う。

(以上 井上達男 記)



HaksanViewにて

井上 境原 高田和 小谷 原田 田中信 井上涼子